

目 次

調査 1

国立中央青少年交流の家を利用した「小・中学生の意識」と事業運営の改善

<調査概要>

1. 調査目的	2
2. 調査対象	2
3. 調査期間	2
4. 調査方法	2
5. 調査対象者の属性	2
6. 調査結果の概要	4
7. 調査結果	7
(1) 青少年交流の家での「生活」や「活動」の満足度	7
(2) 青少年交流の家の「生活」で「もっとも心に残っていること」	9
(3) 「もっとも心に残っていること」を選んだ理由	10
(4) 体験活動別に見た満足度	11
(5) 周りの自然や環境が子どもに与える影響	11
(6) 職員や食堂スタッフに対する評価	13
(7) 宿泊環境に対する満足度	15
(8) 生活・活動の満足度と他の要因とのクロス表	18
(9) 「朝・夕のつどい」に対する評価	20
(10) 他の学校や団体の人との交流	22
8. 調査結果と「学校利用」に伴う運営改善	24
(1) 宿泊日数の拡大に向けての課題	24
(2) 発達段階に応じた活動プログラムの提供と改善	25
(3) 「生活・活動」の満足度と宿泊環境や食事内容の相関	26
(4) 自然環境や周辺環境の学習資源	27
(5) 提供する食事内容の改善	28
(6) 職員及び食堂の対応のあり方	28
参考資料「調査票」	29

調査 2

国立中央青少年交流の家を利用した「小・中学校の集団宿泊活動の現状と教員の意識」

1. 調査目的	31
2. 調査理由	31
3. 調査内容	32
4. 調査対象・方法・回収数	32
5. 学校の状況－学年主任を対象にした調査の結果	34
6. 学級担任の体験の実態と意識－学級担任を対象にした調査の結果	40
7. クロス集計の結果	48
8. 考察－集団宿泊活動を充実する方策	52
参考資料「調査票」	55